

図 平成18年度新高専と既存高専との関係

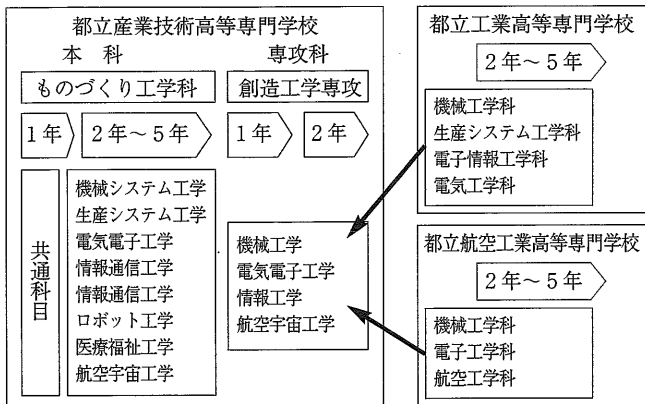


表 東京工学でいう諸課題

環境問題	資源リサイクル、ゴミ処理問題、ヒートアイランド現象、排気ガス対策、水質汚染など
エネルギー問題	クリーンエネルギー開発、省エネルギー、省資源など
都民生活の安全確保	地震・風水害対策、危機管理、代替ロボット開発、低価格高品質住宅開発、宇宙利用など
交通渋滞	交通システム、物流システム等の改良・改善
高齢者福祉	医療・介護ロボット開発、保健機器開発など
中小企業振興	地域密着型技術開発、先端技術移転、産学公連携、新技術開発、宇宙関連技術開発など

また、専攻科は、既存高専の卒業生および外部からの入学生からなる専攻科創造工学専攻一年生三二名が四専攻コースに分かれてそれぞれの科目を履修している。

一方、都立産業技術大学院大学が新高専品川キャンパスに開学した。当初は情報アーキテクチャ専攻のみであるが、平成二〇年四月に専攻科卒業生を受け入れる新しい専攻が誕生する予定で、九年間一貫の形が完成する。

②産業集積地の立地を最大限に生かすことにより、首都東京におけるものづくり教育の根幹をなす高等教育機関をめざすとともに、首都東京の再生に技術面から貢献する「東京工学・東京がかかえる諸課題に技術的観点からこたえるための工学技術の総体(表)」という新しい技術教育を推進する。

新高専の経営方針の一つに産学

●事例紹介● 都立の高専改革 産業技術高等専門学校が開校

中西 佑二
(東京都立産業技術高等専門学校教授)

一 はじめに

平成一六年一月、東京都教育委員会は学務部長を委員長とする高専改革検討委員会を設置し、学識経験者や企業関係者を交えて、一回にわたり様々な観点から検討を行い、平成一六年二月、高専改革検討委員会報告書をまとめた。

平成一八年四月、社会経済状況の変化に応じた学科改編など両校の教育資源を有効に再配分して発展を図り、企業や都民の新たなニーズにこたえる高等教育機関とするという報告書の内容にそって、これまでの都立二高専(工業高専、航空高専、既存高専と略称)を再編・統合して、都立

産業技術高等専門学校(新高専と略称)がスタートした。新高専は地名をとって航空高専のある荒川は荒川キャンパス、工業高専のある品川は品川キャンパスと名付けられた。ここでは、新高専の概要を述べさせて頂く。

二 新高専の特色

①新高専では、「首都東京の産業振興や課題解決に貢献するものづくり人材の育成」を使命とし、高専本科の上にて専攻科を設置し、産業技術大学院大学との接続を視野に入れた、一六歳から九年間のものづくりの一貫した実践的技術者教育を行う。

公連携・社会貢献が挙げられている。地域に開かれた学校とするため、両キャンパスの教育研究資源を有効に活用した事業の展開など、積極的に社会貢献することを目指している。

三 新高専の教育理念

- ① 科学技術の高度化、複合化、グローバル化に迅速に対応できる応用力、創造力を育てる。
- ② 一つの分野で他人に負けない専門性を持ち、他の関連する分野でも多角的視野と柔軟性により対応可能な能力を育てる（「一専多能」型の人材づくり）。
- ③ 東京の産業再生や課題解決に果敢に挑戦する意欲と能力を育てる。

- ④ 社会的倫理観を持ち、技術者として多面的に判断して行動できる素養と基礎能力を育てる。

四 新高専本科・専攻科の人材像

【本科】企業が求める即戦力型実践的技術者を育成する。

即戦力型実践的技術者とは、中学校卒業後という感性豊かな若年からの一貫教育により、技能的なセンスの体得をベースに工学的知識・技術の基礎基本を学び、ものづくりの現場で即戦力として存在感のある役割を果たす実践的技術者である。

【専攻科】企業が求める開発型実践的技術者を、課題設定型プロジェクト研究（PBL）等を通じて育成する。

開発型実践的技術者とは、問題発見・解決能力、コミュニケーション能力などを身に付け、創造的・複眼的視野をもった企画・開発のできる実践的技術者をいう。

五 おわりに

新高専はスタートしたばかりである。既存高専は四〇数年にわたるものづくりの歴史がある。いま、構想図をもとにしたスケッチ図をキャンパスに描き、教職員、学生の力で新高専の完成図に向けて色を塗り始めたところである。

おわりに、本誌に新高専の経緯と概要を紹介させて頂き、感謝申し上げます。